

【授業の到達目標および概要】

この「保健学総合講義」は1年前期に他の講義に先立って開講される保健学専攻の必修科目で、最初に保健学専攻の専任教員全員が、原則として90分授業を2回ずつ担当して行うものである。この講義を通して「保健学」の3領域で課題となっている事柄への理解を深め、視野を広げて、各人の研究に役立ててもらうことを目的とする。

【授業計画】

- ①②川村 堅：環境物質のリスクアセスメントとして健康影響の評価がある。ヒトで直接評価するのが困難なことから動物実験で代替することが多い。環境因子とがんの発生との関係を実験病理学的見地から捉え、説明できるようにする。
- ③④宮城重二：わが国と諸外国における地域保健に関する研究論文を紹介し、また、わが国の地域保健について、特にライフサイクルに対応した展開方法や栄養・運動・休養を中心とした健康増進の方法について解説し、地域保健学の位置づけを明らかにする。
- ⑤⑥金子嘉徳：国民個人や自治体、NPOなどが実践しやすく健康増進につながる運動方法と運動用具の開発、普及、評価、並びに公園を健康づくりの場としての利用の可能性について、これまでの実践活動、研究をふまえて解説する。
- ⑦⑧山下俊一：発表済みの運動生理学・スポーツ医学に関する研究論文を紹介し、研究課題のとらえ方、実験材料を用いた研究方法・人体を対象にした研究方法について解説する。
- ⑨⑩木村雅子：体の中の水は一様ではなく、水分子の置かれた状況によりさまざまな束縛状態にあることが分かっている。骨格筋を例にとりて生体内の水の状況に迫り、その臨床応用として発展したMRI画像とその研究応用について学ぶ。
- ⑪⑫堀江修一：血栓を起因とする心筋梗塞や脳梗塞などの疾患は、私達に身近な病気である。血栓形成の制御において中心的な役割を果たしている血管内皮細胞に焦点をあて、その巧妙な抗血栓性機能の調節や概日リズムについて、また種々の病態時におけるそれらの変動と栄養素、薬剤を介した血管内皮細胞の機能改善作用について紹介する。
- ⑬⑭林 修：疾病に対する生体の防御機構あるいは監視機構としての免疫系を、実験・研究的に測定する方法およびその臨床的応用について述べるとともに、消化管免疫の成立と食物アレルギーとの関連について述べる。
- ⑮⑯橋本紀子：現在、日本の子どもたちが、発達過程で直面するセクシュアル・ヘルスに関する課題および学校や地域での取り組みについて、諸外国との比較も交えながら講述する。
- ⑰⑱小林正子：生涯に亘って心身の健康を保つためには、一次予防の重要性が強調される。心身の健康状態をどのように把握するか、その観測データはどのように処理すべきか、そして乳幼児から子どもを中心に生涯を通して健康を守るためにできる具体的対策とは？ これらについて身体発育（加齢）の視点から解説する。
- ⑲⑳遠藤伸子：学校保健看護とは何か、学校保健および児童生徒・社会的なニーズ等の変遷など、多面的な視点から論ずる。さらに現状における課題と今後取り組まれるべき対策について、学校保健政策および学校保健の中核である養護教諭の視点から考察す

る。

21 22 野中 静：わが国における看護学教育の法的基盤・制度の歴史的変遷と現状について解説し、現在の看護学教育に関する課題について、基礎教育（学部教育）および卒業教育の視点から論ずる。また、看護の臨床実践力を育てる教育方法のあり方について考察する。

23～30 まとめ

【授業外学習】

社会の様々な側面をより科学的、客観的に捉えられるよう新聞等のニュースに注意を払い、世界の動向を察知し、幅広い分野への理解を深めるように心がけること。

【成績評価の方法・基準】

出席および授業への取り組み、態度等。